

2020年度収蔵作品（受贈）

no.	作者名	作品名	制作年	技法	サイズ (cm)
1	小田 襄	円と方形——7つの色 緑	1975	スクリーンプリント、手彩色（3色）・紙	65×50
2	小田 襄	円と方形——8つの色 橙	1979	スクリーンプリント、手彩色（3色）・紙	65×50
3	小田 襄	円と方形——8つの色 赤	1980	スクリーンプリント、手彩色（8色）・紙	65×50
4	松田 松雄	風景（堤）	1972	油彩・カンヴァス	33.4×55.5
5	山野辺 日出男	壁（蝕）	1980	油彩・カンヴァス	90.9×116.7

（受贈資料）

no.	作者名	資料名	制作年	技法	サイズ (cm)
1	朝倉 撰 中谷 泰 西 常雄 佐藤忠良 竹谷富士雄 鳥居敏文 鈴木新夫	寄せ書き	1956	水彩・紙（色紙）	27.2×24.1

◇小田 襄／おだ じょう（1936–2004）

1936年東京世田谷に生まれる。父は日展会員の彫刻家小田寛一。1956年東京藝術大学美術学部彫刻科に入学、菊池一雄教室で学ぶ（1960年卒業、同学彫刻専攻科に入学、1962年卒業）。同年から新制作協会展に出品、1959年に《裸》で初入選（1964年に会員）。1960年若林奮、高松次郎らと「20代作家集団」を結成、作品展を開催し鉄鋳物とブロンズによる実験的な作品を出品。同年、鉄や真鍮等による作品《枢車》で新制作協会展新作家賞を受賞（翌1961年も《儀式》で受賞）、また、この頃から実験的な版画制作も始め、メタリック・プリントと呼ばれる独自の技法を拓き、彫刻と並行して生涯制作をつづけた。1963年初個展「閉ざされた金属」（スルガ台画廊）を開催。同年、第1回全国野外彫刻コンクール展（宇部市野外彫刻美術館）で宇部市野外彫刻美術館賞受賞。同展には1965年にもステンレスによる作品で受賞、以降、鉄やステンレスに着目した抽象彫刻を制作。1964年「現代美術の動向展」（京都国立近代美術館）、1966年「現代美術の新世代展」（東京国立近代美術館）など国内外で展覧会多数。1967年イタリア政府留学生としてローマで制作（1968年まで）。1977年中原悌二郎賞最優秀賞、1979年第1回ヘンリー・ムーア大賞展優秀賞、1984年現代日本彫刻展大賞など受賞多数。1983年彫刻作品と版画作品を網羅した「小田襄展」（神奈川県立近代美術館）を開催。

多摩美術大学教授、東北工業大学教授として後進の指導に当たる一方、日本美術家連盟理事長（2000年以降）として美術家の社会的地位の向上に努めた。2002年紫綬褒章受章。2004年死去。

◇松田 松雄／まつだ まつお（1937–2001）

1937年岩手県陸前高田市に生まれる。1963年いわきに移り住む。1965年若松光一郎に絵画の手ほどきを受ける。1975年昭和会林武賞を受賞。1976年、発足メンバーとしていわき市民ギャラリーを立ち上げ、市民運動の中心的存在として美術館建設の機運醸成に力を注ぐ。1984年いわき市美術館建設審議会委員に就任。1987年「現代東北美術の現況展II」（福島県立美術館）。1991年個展「松田松雄 91展」（郡山文化センター）。1992年アトリエを福島県古殿町に移す。1993年原因不明の病に倒れる。1994年闘病中の松田を応援する「松田松雄を励ます会」が主催する「画業25周年 松田松雄の世界展」（大黒屋デパート、いわき市）、古殿町文化協会が主催する「松田松雄の世界展」（古殿町ふるさと文化センター）が開催される。1997年山野辺日出男、阿部幸洋らとの3人展「彼らの時代展」（ギャラリー界限、いわき市）、1998年「黒の余韻—松田松雄 斎藤隆一」（いわき市立美術館）開催。1998年いわき地域学会美術賞を受賞。2001年死去。

2015年故郷である岩手県で大規模な回顧展「松田松雄展」（岩手県立美術館）が開催される。

いわき市民ギャラリーの中心的メンバーとして、いわきの芸術環境の底上げに尽力すると同時に、絵画サークルを主催するなど、後進の表現者たちにも大きな影響を遺している。

◇山野辺 日出男／やまのべ ひでお（1937–2001）

1940年いわき市平に生まれる。福島県立磐城高等学校を経て1963年日本体育大学を卒業。卒業と同時に体育教師として福島県立小名浜高等学校に赴任し、美術教師遠藤正三との交友を機に油絵を描き始める。1966年太平洋美術展に出品（1971年まで出品）。1970年頃、在いわきの風景画家熊坂太郎の指導に接して影響をうけ、東北農村部の雪景色を生涯のテーマとする。1974年新世紀展に出品（1983年まで出品）。1976年頃より、ヤスリ掛けを施した下地処理、面相筆での細密な表現など独自の技法を駆使する。1977年、画業に専念する覚悟で教職を退職、独自の表現世界を追求する。一方でウェイト・リフティング、ボディー・ビルディングなどに熱中し制作にかかる時間は少なくなる。1978–79年、安井賞展に出品。1980年昭和会展で林武賞受賞。1991年「福島美術家たちIII」（福島県立美術館）に出品。この頃にはほとんど絵筆を握ることはなくなっていたという。1997年、ともに昭和会受賞のいわきの3作家（山野辺、松田松雄、阿部幸洋）による「彼らの時代展」（ギャラリー界限、いわき市）開催。2007年死去。